

「ふる里サポーター制度の確立と交流人口の拡大」

～かっぱランド夏まつり・拡大同窓会を通して～

浜田市 黒沢公民館

1 黒沢地区の概要

(1) 黒沢地区は、浜田市三隅町の市街地から、南に約8kmにある黒沢公民館を中心に約40km²と広大な面積を有し、国の天然記念物の「大平桜」をはじめ、文化遺産や史跡にあふれている。

世帯数は約250戸、人口は約250人、米作りを中心とした農業に加え、少しばかりの野菜作りで生業を営む家庭が多い。地域には、学校や保育園そして病院、JAなどは全くなく、公的機関と言えば公民館以外は無。生活に欠かせない商店も無く、子育てをする世代が暮らせる環境であるとは言い難い。

このような生活環境の中でも、地域住民は、人々の強い絆に寄り添い、お互いを思い合って、絶妙なほどの自然との調和を気遣いながら、在りし日の子ども達の、こだまする声を心の支えに今を生活している。



2 事業の趣旨

少子高齢化、人口減少社会の到来が現実となる中、このままでは地域が消える。この危機感を共有し、地域住民が一致団結し、地域課題の解決について、共通の目標をも

って当事者意識を高めることとした。

議論の末、人口の増は望めない状況下では、交流人口・関係人口の拡大による地域の活性化に舵を切ることが地域の答えとなった。

3 具体的な取組内容

(1) 旧三隅南小学校の拡大(開校から閉校まで) 同窓会の開催

ふる里の応援団(ふる里サポーター)になってもらうための呼び掛けを行った。



南小
拡大同窓会の様子

(2) 同窓生を巻き込んだ「かっぱランド夏まつり」の開催

ふる里が頑張っている姿を見て、ふる里の良さを同窓生にも味わってもらうことによって、交流人口の拡大を目指した。



かっぱ
ランド夏まつり
の様子



4 評価と成果

地域の思いを発信し、拡大同窓会を開催した。しっかり気持ちを受け止めて頂き、多くの卒業生及び家族の参加があり、所期の目的は果たせたと振り返っている。

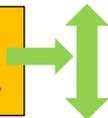
- ・「ふるさとサポーター」については、多くの賛同を得た。
- ・ふるさと米「いいね、黒沢」の希望調査では多くの注文があった。
- ・ふる里が頑張っているイベント「かつぱランド夏まつり」には子供連れでの参加があり、はしゃぐわが子たちを見ながら、嬉しさを噛みしめている親の姿は印象的であった。



◆◆◆かつぱランド ばんざあ〜い◆◆◆



ふるさとの香り 宅配便
お米【いいね、黒沢】出荷です・・・



5 今後の課題と見通し

- (1) 持続可能な地域づくりを目ざした総力戦を謳い文句に取り組んだが、一朝一夕には行かない。どうしても普段から地域づくりや地域の有り様に、危機感をもっている人たちだけが、やはり活動するだけの形になった。粘り強い取り組みが必要である。
 - (2) ふる里米「いいね、黒沢」の申込みは沢山あったが、どうしてもネックになることは、送料問題である。例えば、3Kg 1,200円が、送料込みになれば2,400円と倍増になる。協力はしたいが少し難しいという意見が寄せられている。次の策を検討しているが、地域住民の思いが一致しない状況であり、話し合いが必要である。
 - (3) 相互関係が出来た人たちに対して、お便りを届けながら、お互いの気持ちの一致点を探し求めて行く作業が急がれる。しかし、急ぐあまりに不快感を与えることが無いように慎重に、また良好な関係作りを意を配して対応していきたいと思う。
 - (4) ホームページを閲覧していただくことや、機関紙「いいね、黒沢」をお届けしながら、ふる里の情報を事細かにお知らせし、理解を深めて頂く努力を重ねていきたいと思う。今や、夏の風物詩となって地域内外に知れ渡っている「かつぱランド夏まつり」のことも情報発信し、ちびっ子の自然体験や、夏休みの思い出づくりを一緒になって作りながら、結果としてUターンへと繋がればこの上もないことで、何とかして地域住民総動員体制へとつなげるための惜しみない取組を展開していきたい。今だけ、金だけ、自分だけというジコチュウとの戦いになるが、負けない。
- (文責：館長 三浦 博美)

